

甲塚古墳の埴輪たち

下野国分寺跡の南側に甲塚古墳がありま
す。この古墳は今から約1450年前の6
世紀後半に造られた古墳です。当時の呼び
名はわかりませんが、国分寺がつくられた
後の時代の人達が、国分寺を守るための僧
兵の鎧や兜を埋めた塚という伝承から甲塚
古墳という名称がついたといわれています。

この古墳は、1段目には幅の広い平らな
面（平坦面）があり、2段目が帆立貝のよ
うな形をしている帆立貝形前方後円墳とい
う形で、墳長が約80mあります。

今年、史跡公園としてオープンする下野
国分寺跡の史跡整備に合わせて発掘調査を
行いました。この古墳は、墳丘の一段目に
広い平な部分がある古墳なので、この平坦
面がどのような使われかたをしているのか
確認するために調査を進めていきました。
すると、古墳西側のくびれた部分の付近か
ら、馬や人物のかたちをした形象埴輪群や
多くの土器群が出土しました。形象埴輪は
復元できるもので24基あり、内容は馬形埴
輪が4基、人物埴輪が19基、盾持ち人が1
基出土しました。馬形埴輪は、馬鐙などを
装備した飾馬や裸馬が、人物は、女性や男
性が区別されており、頭上に容器や箱など
を載せる人や鋏を持つ農夫などが出土しま
した。なかでも特筆すべき埴輪は、人物埴
輪7（写真2）・8（写真3）としたもの

で、機織機で布を織る人物（女性）を表現
したものがあります。人物埴輪7は、地機
で、ユネスコ世界無形文化遺産の結城紬を
織るために使用されている機織機につなが
る原型タイプの機織機で、人物埴輪8が地
機より前から使用されていた原始機という
機織機です。人物埴輪7の機織機が新式で
人物埴輪8の機織機が旧式になり、この2
基の埴輪が日本初出土のものになります。

機織機の部材自体は、甲塚古墳より前の
時代の遺跡から木製品で出土してしまっ
たが、遺存状況が悪く全体像が判りませ
んでした。しかし、甲塚古墳から機織形埴輪が
出土したことにより6世紀後半におけるこ
のような機織機の存在のみならず、組み立
てられた様子が初めて明らかになりました。

甲塚古墳から出土した埴輪群が何を意味
しているのかは、今後検討を重ねていかな
ければなりません。しかし、新旧2種類の
機織形埴輪が形象埴輪列の中心付近に配置
されるため、機織りが甲塚古墳の被葬者に
とって重要なものであり、この被葬者が機
織りに関わっていた人物であった可能性が
考えられます。また、甲塚古墳から出土し
た埴輪群には彩色が残っており埴輪に塗ら
れていた彩色も復元することができま
す（写真4 人物埴輪7彩色復元）。

甲塚古墳から出土しました形象埴輪群は、



下野市教育委員会 文化課

5月6日(火)まで、しもつけ風土記の丘資料
館で展示されていますので、ぜひご覧くだ
さい。



機織形埴輪出土状況(左：人7、右：人8)



地機



原始機



4

携帯電話
市ホームページ



■人口と世帯(3月1日現在)
人口/ 60,278人(-21)、男性/ 30,046人(-7)、女性/ 30,232人(-14)、世帯数/ 22,383世帯(+5)

TAKE FREE

広報しもつけを設置協力いただけるコンビニエンスストアを募集しています。
ご協力いただける場合は総合政策課 ☎ 0285 (40) 5550 情報広報グループまで
ご連絡ください。

PC・スマホ
市ホームページ

